北海道ガスの土谷でございます。皆さまにおかれましては、平素より、弊社の事業に対しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたびは、日本機械学会北海道支部長という大役を拝命し、大変光栄に存じます。この場をお借りし、ひと言ご挨拶させていただきます。

まず、本会の定款を開きますと、その第３条に目的がこう記されています。「本会は、機械及び機械システムとその関連分野に関する学術技芸の進歩発達をはかり、もって人類社会の発展と安寧及び福祉の向上に貢献することを目的とする。」つまり、技術を通して社会を良くするということですから、学術界と私たち地域の産業がしっかりと連携しあい、地域社会へ成果を還元していくということが肝要であると存じます。

また昨今、多くの学会において、会員減少、収入減少が重要課題となっております。この対応として、経費削減を進めることはもちろん重要ですが、本会の発展のためには、同時に会員数を増加させる取組もきわめて重要でありましょう。

すなわち、機械学会が地域産業の高度化を主導して、より地域から必要とされる存在になることが必要です。そのためには、地域との対話を促進して、ニーズを吸い上げ、シーズを発信するという取組が重要となりましょう。このたび、産業界として弊社が支部長を拝命する意義は、まさにこの「学術界と地域産業との理解促進」にあると考える次第です。この目的に照らし、セミナーや懇話会といった、情報発信・意見交換の場を提供することを、積極的に支援してまいりたいと存じます。

これにより、地域の本会に対する理解が進み、そこから協力者や会員が増えることによって、本会の活動が益々活発になる。そうしたサイクルをより一層高めることに、微力を尽くす所存です。

近年においては、インダストリー4.0 に代表されるように、米欧を中心にあらたなものづくりの概念が提唱され、それに基づいて様々な規格作りが主導されています。一方、日本はその潮流に取り残されているという指摘もなされております。本邦の産業界と学術界が一体となって、産業の高度化を図り、もって技術立国日本を輝かせるために、本会に期待される役割は非常に大きいと確信する次第です。

どうぞ皆さまには、絶大なるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。